施工説明書

シャワートイレ2820タイプ

※品番は代表的なものを例示
DT-2822　DT-2824
DT-2823

安全のために守ってください！

シャワートイレを安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。
シャワートイレの施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

警告 ・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

注意 ・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠警告

水につけたり、水をかけないでください。
※ショート・感電の恐れがあります。

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
※発火したり、異常作動してケガをすることがあります。

アースを確実に取り付けてください。
※故障や漏電のときに感電する恐れがあります。
※コンセントにアース端子がない場合は、電気工事店にご相談ください。

⚠注意

バスルーム等の水のかかる所や、表面に水滴を生じるような湿気の多い場所では、使用しないでください。
※火災・感電の原因となります。

上水道以外は使用しないでください。
※機械の内部腐食により、ショート・発火の原因となります。

交流100V以外では使用しないでください。
※火災・感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っぱったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。
※電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

電源コードや漏電保護プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
※感電・ショート・発火の原因となります。

一般便器用の密結パッキンを間違えて取り付けないでください。
※漏水により家財等をぬらす恐れがあります。

漏電保護プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の漏電保護プラグを持って引き抜いてください。
※感電やショートして発火することがあります。

施工後に漏水点検を必ず行ってください。
※漏水により家財等をぬらす恐れがあります。

お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす恐れがあります。

施工前のご注意

■電源コンセントは？

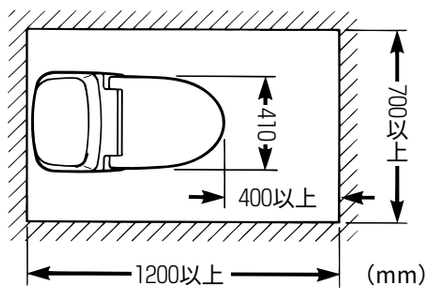
- 電源はAC100V、最大定格930W（電動開閉付・部屋暖房付）、590W（電動開閉付・部屋暖房無）、580W（電動開閉無・部屋暖房無）に適した電気配線をしてください。
  なお、ヒーター付便器の場合は、上記最大定格に27Wを加えた電気配線をしてください。
- 電源コードの長さは1.2mです。
  コンセントは電源コードの届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。
- 必ずアース工事（第3種接地工事）を行ってください。
  アースターミナル付コンセント（フラット型）が便利です。また、凍結防止ヒーター付便器などを併用する場合（プラグの数が多い場合）は、アースターミナル付ダブルコンセント（フラット型）をご使用ください。
  ※配線工事は電気工事店にご依頼ください。

■水質・水圧は？

給水は必ず上水道に接続してください。
※水に不純物が多く含まれていると、電気部品や機械部品の耐久性が低下します。
（ 海岸近くの井戸水には塩素イオン、硫酸イオン、浮遊物が特に多く含まれている場合があります。）

■必要なスペースは？

必要なトイレスペースは下図のとおりです。
ノンタッチ便フタ開閉機能が正常に作動するためには、便器先端から400mm以上のスペースが必要です。

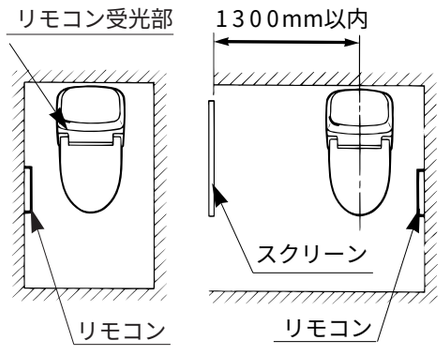


■タンクを設置する前に

タンクは、便器を設置してから施工してください。

■リモコンの取付位置は？

リモコンはできる限り、リモコン受光部側の壁に取り付けてください。



必要上、反対側の壁に取り付ける場合は、必ず取付位置で受信することを確認してから行ってください。また、リモコン受光部側の壁が洗面台などで便器から距離がある場合は、受信しない場合があります。このようなときは便器中心から1300mm以内に信号反射用のスクリーンを設置してください。
スクリーンの寸法は高さ1100mm以上、奥行きはリモコン設置位置までの距離を確保してください。（ただし、壁の仕上げ・色などの条件により多少異なりますのでご注意ください。）

■給水部材は？

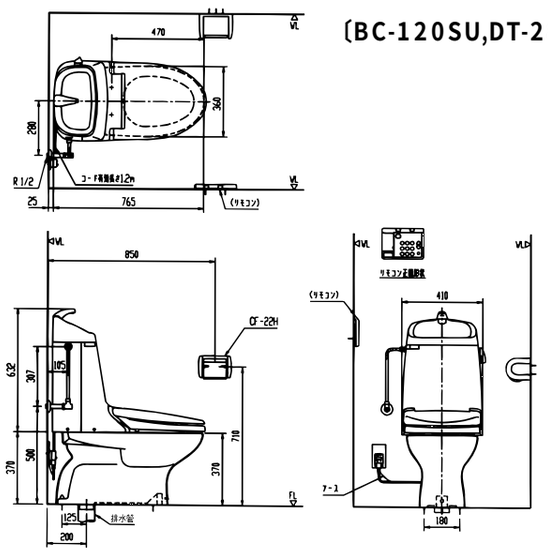
Nまたは-NE付品番のものは止水栓が同梱されていません。既設の止水栓を流用するか、別途手配してください。詳しくは施工方法の『注意1』をご覧ください。

■タンクを床に置かないで！

タンクを設置する前は、絶対にタンクを直接床に置かないでください。
※取付ボルトが折れる恐れがあります。

標準施工図例

〔BC-120SU,DT-2824の場合〕



※ リモコンの取付位置は「施工前のご注意」を参考にしてください。
※ 紙巻器（CF−22H）は別途ご用意ください。

施工時のご注意

■電源は入れないで！

漏電保護プラグは施工が終るまでコンセントに差し込まないでください。

■サプライ管を切断したら

サプライ管を使用する場合、サプライ管を切断したら、必ず水洗いなどで切粉を完全に取り除いてから接続してください。
※故障の原因となることがあります。

施工後のご注意

■試運転は便座に触れて

試運転は必ず便座に触れて行ってください。
※便座には着座センサーが付いていますので、おしり洗浄、ビデ洗浄、温風乾燥は便座に触れていないと作動しません。

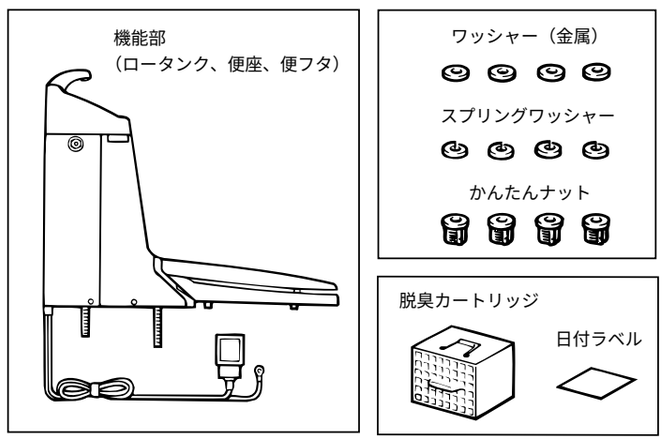
■長期間使用しない場合は

施工後、長期間使用しない場合は水抜きを行ってください。
※温水タンク内の水が汚れたり、冬期には凍結して**故障する恐れがあります。**

最終ページをご覧ください。

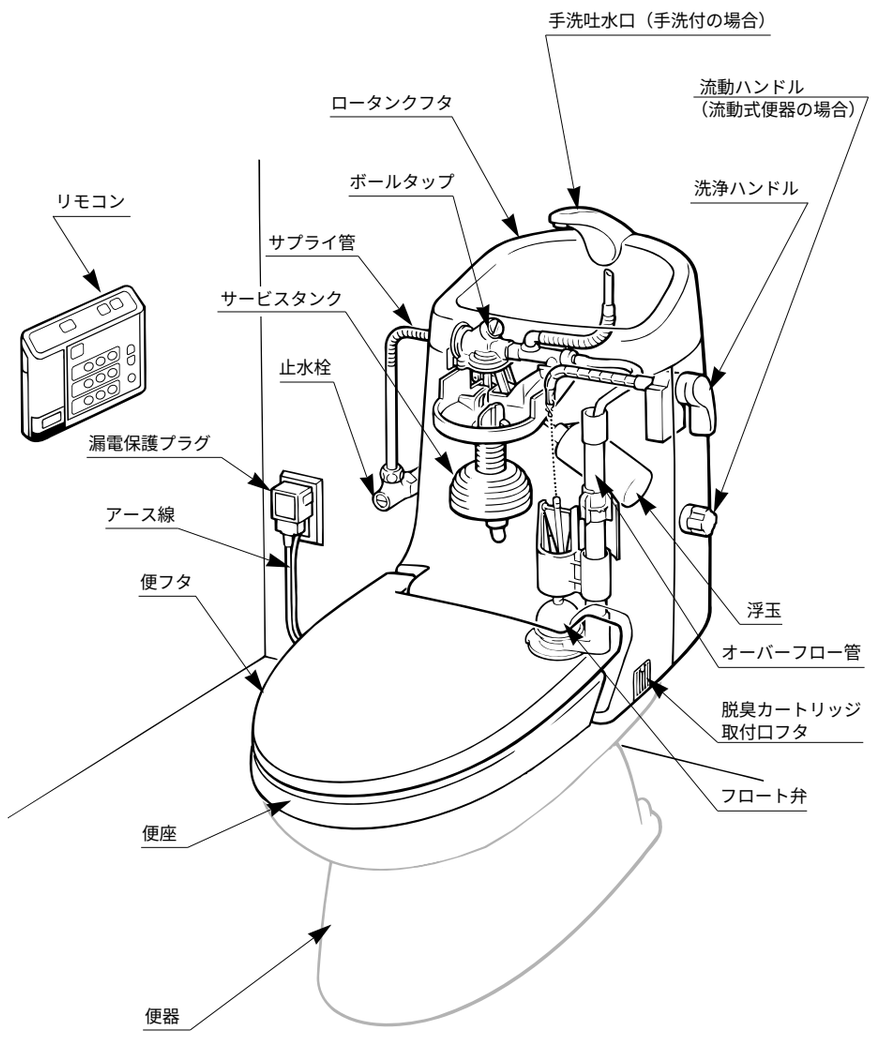
部品の確認

（梱包内容を確認してください。）



※1：Nまたは-NE付品番のものは止水栓、サプライ管は同梱されません。

各部の名称



株式会社INAX

本　　社 0569-35-2700
関東支社 048-668-1177
関西統括支社 06-539-3500
北海道支社 011-271-1713
甲信支社 0263-36-2166
中国支社 082-223-1710
東北支社 022-301-1701
中部統括支社 052-201-1717
四国支社 087-821-1701
首都圏統括支社 03-5541-7111
北陸支社 076-264-1710
九州支社 092-282-3154

このたびは当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

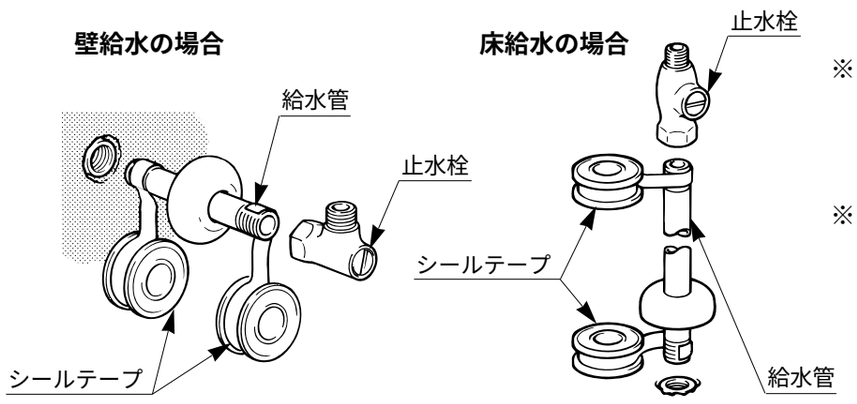
注意	●この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。 ●施工後は必ず試運転を行ってください。 ●お客さまの方に必ず本書と取扱説明書や保証書をお渡しください。お渡しするときは、使用方法をご説明ください。

施工方法

1 止水栓の取付け（壁・床給水の場合）

壁・床仕上げ完了後、壁面・床面に取り出した給水管に止水栓を取り付けます。

※止水栓を給水管に取り付けるときはねじ部にシールテープ等のシール材を巻き付けてください。



※リトイレシリーズで取替用止水栓を使用する場合は、止水栓に同梱されている説明書を参照して取り付けてください。

※既設の止水栓を使用する場合は、取替用サプライ管を使用してください。

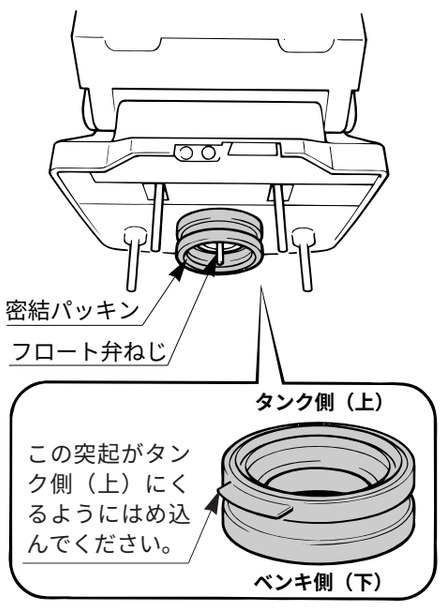
注意1 **参照**

2 機能部の取付け

(1)**【アメージュG、リトイレシリーズのみ】**

機能部下面のフロート弁ねじ部に、便器に同梱されたシャワートイレ用密結パッキンをしっかりとはめ込みます。

注意2 **参照**



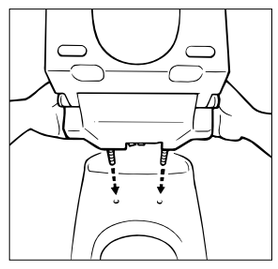
(2)**【以下アメージュM、アメージュG、リトイレシリーズ共通】**

機能部下面にある固定ボルト4本と便器のボルト穴4個を合わせて機能部を設置します。

※前側の固定ボルトを見ながらボルト穴に差し込むと容易に取り付きます。

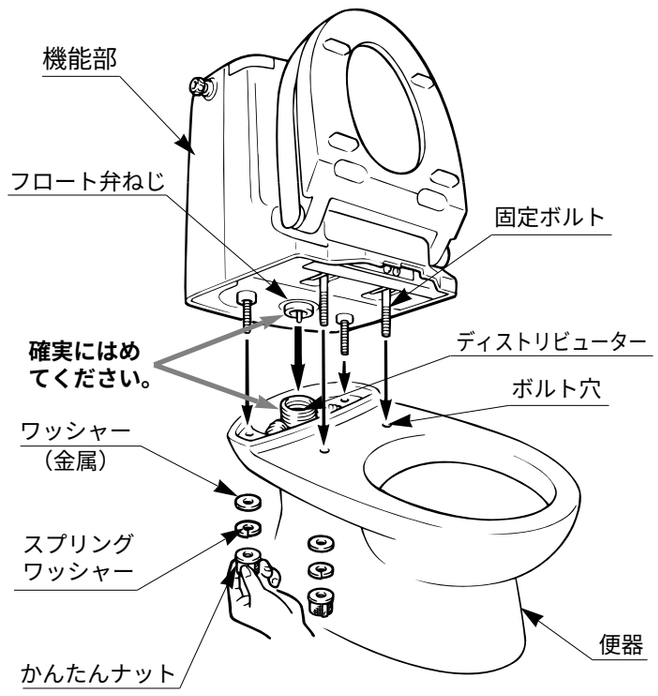
注意3 **参照**

注意4 **参照**

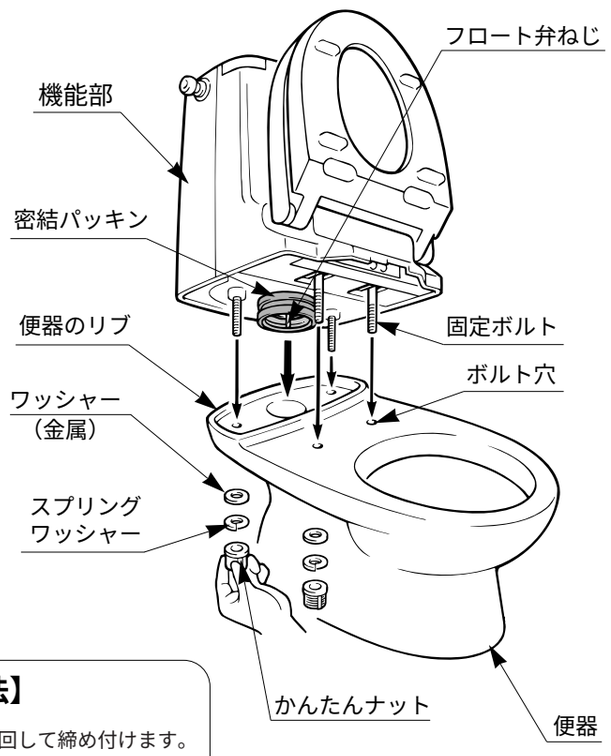


(3)ワッシャー（金属）、スプリングワッシャー、かんたんナット（各4個）で機能部を固定します。

アメージュMシリーズ：ディストリビューター式（便器BC-120タイプ）

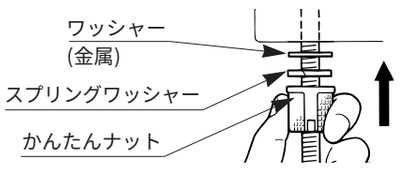


アメージュGシリーズ：密結式（便器BC-130タイプ）
リトイレシリーズ　：密結式（便器BC-140タイプ）

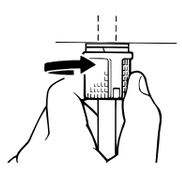


【かんたんナットの取付方法】

1 固定ボルトに通して、上に押し込みます。



2 手で回して締め付けます。



3 サプライ管の接続

(1)ボールタップと止水栓（水抜管を使用する場合は給水ソケット）の位置関係を確認してサプライ管の曲げ具合を決定します。 **注意5** **参照**

(2)サプライ管の蛇腹部をゆるやかに曲げて止水栓（または給水ソケット）に合わせます。このとき管をつぶさないように注意します。

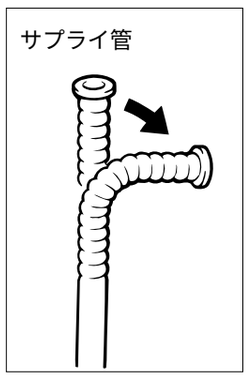
(3)サプライ管をボールタップ部に仮組みします。

(4)止水栓（または給水ソケット）に合わせ、差込しろとして10～15mm残してサプライ管を切断します。 **注意6** **参照**

(5)サプライ管を止水栓とボールタップに接続します。 **注意7** **参照**

※**止水栓を使用しない場合**、サプライ管を支持金具にて壁面に支持します。

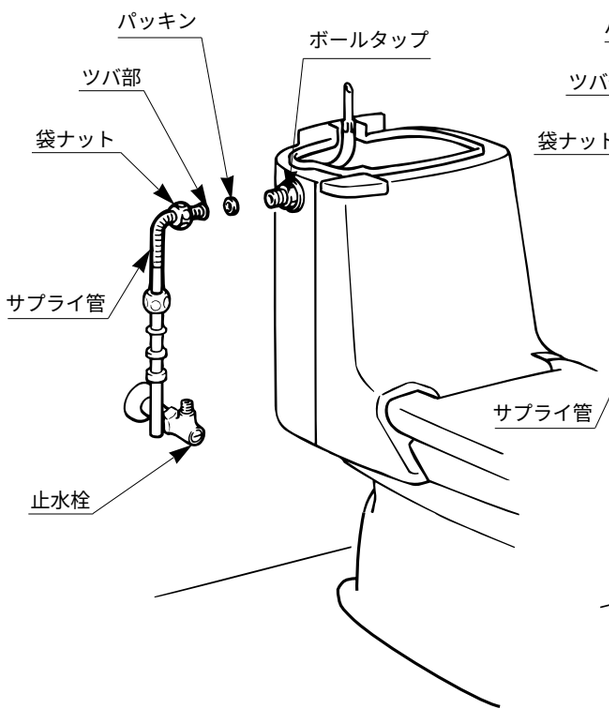
※水抜式の手洗付の場合、給水圧が高くて給水音が気になるときは、付属のオリフィスパッキンを使用してください。（水抜式の手洗無の場合は、オリフィスパッキンが標準となります。）



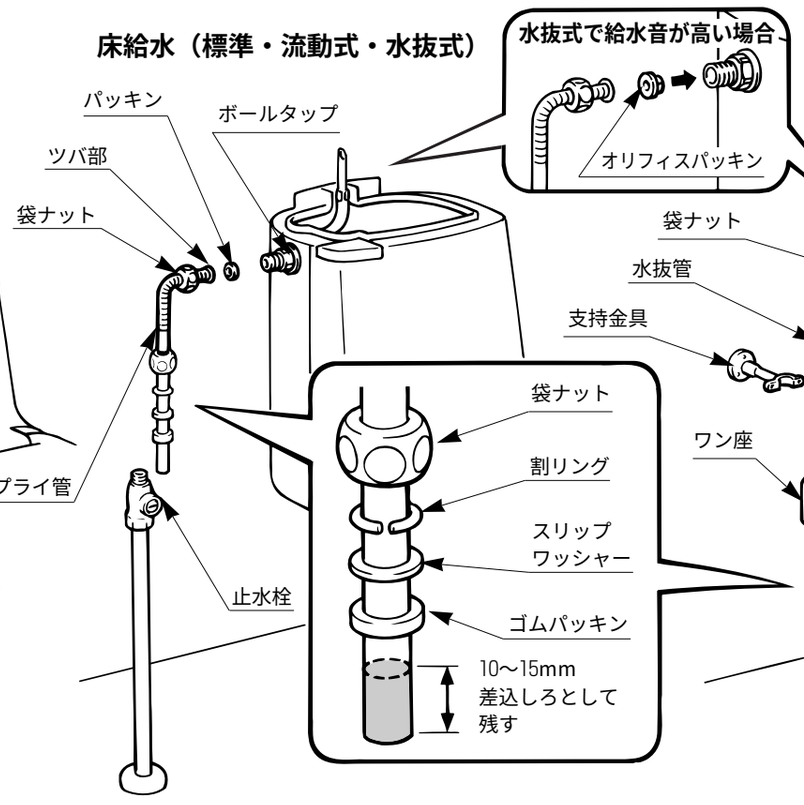
《止水栓を使用する場合》

《止水栓を使用しない場合》

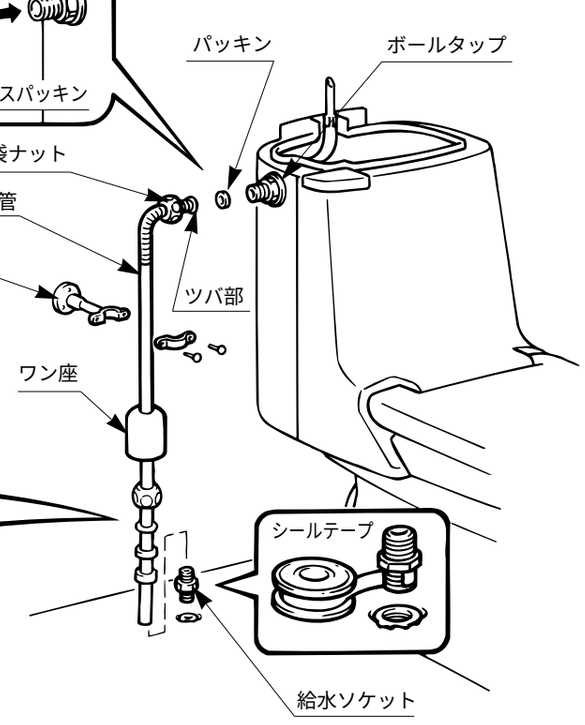
壁給水（標準・流動式）



床給水（標準・流動式・水抜式）



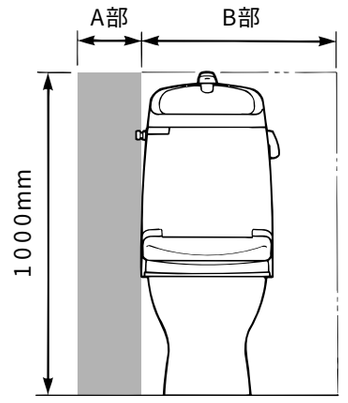
床給水（水抜式）



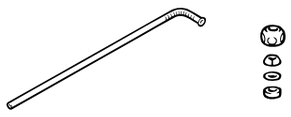
注 意 1

リトイレ便器とセットする場合、給水が下図A部にある場合は既設の止水栓を使用し、取替用サプライ管を別途手配してください。

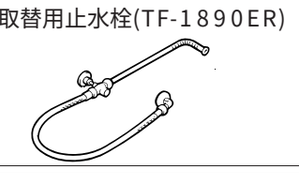
給水が下図B部にある場合は取替用止水栓を別途手配してください。



A部：取替用サプライ管(TF-1890SR)



B部：取替用止水栓(TF-1890ER)

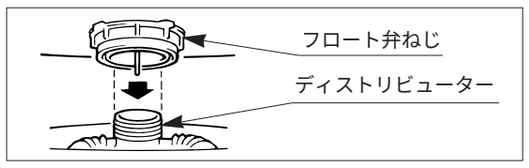


注 意 2

密結パッキンは、取り付ける向きに注意して、必ずロータンク側のフロート弁ねじに確実にはめ込んでください。
※漏水の原因になります。

注 意 3

アメージュMシリーズの場合、ディストリビューターは、必ずフロート弁ねじの内径部に確実にはめ込んでください。
※漏水の原因になります。



アメージュG、リトイレシリーズの場合、必ず真上からタンクの固定ボルトを便器のボルト穴に挿入してください。
※タンクの固定ボルトを斜めに挿入すると、便器のリブに密結パッキンが乗り上げて漏水する恐れがあります。

注 意 4

- **ナットの締付けは片利きのないように前後左右とくりかえし、少しづつ行ってください。**
  ※便器が割れる恐れがあります。
  ※漏水の原因になります。
- **ナットやボルトは樹脂製です。必ず手で締め付けてください。**

注 意 5

サプライ管は、蛇腹部を曲げて止水栓と位置合わせしてください。けっして直管部を曲げないでください。

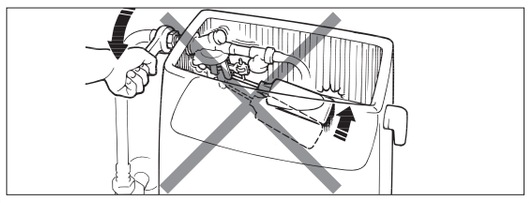
注 意 6

- **サプライ管のツバ部は絶対に切断しないでください。**
- **サプライ管の切断は必ずパイプカッターを使用し、切断後は必ず水洗いなどで完全に切粉を取り除いてから接続してください。**

注 意 7

ボールタップが回転しないように固定しながら袋ナットをしっかりと締めてください。

※ボールタップが回転すると浮玉がタンク側壁と干渉して止水不良の原因になります。

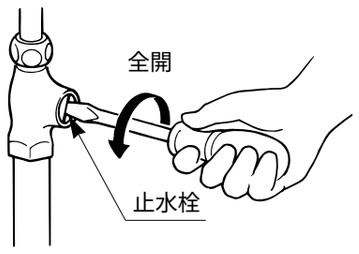


注 意 8

止水栓の調節部は樹脂製ですので、キズを付ける恐れがあります。必要以上に閉めすぎないでください。

注 意 9

水抜栓と止水栓が両方ある場合、止水栓は必ず全開にして使用してください。止水栓を絞ると水が抜けきれず、凍結する恐れがあります。



注 意 10

ロータンクフタが浮いたり、ぐらつく場合は、差し込み不十分ですので、再度差し込み直してください。

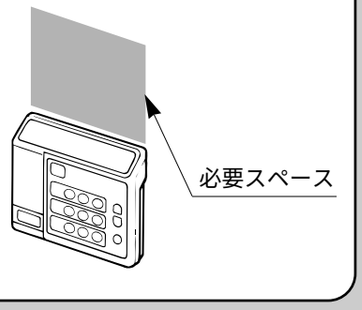
※漏水の原因になります。

注 意 11

- **乾電池のプラスとマイナスの向きを間違いのないように入れてください。**
- **乾電池は、新しいものと古いものを混ぜて使用しないでください。**

注 意 12

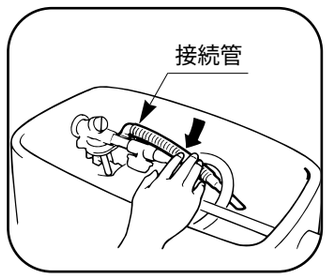
- **おしりやビデのスイッチを押すと水が噴出しますので注意してください。**
- **リモコン取付位置の上方に、リモコンを脱着する際に必要なスペースが十分あることを確認してください。**



4 止水位の確認

(1)**手洗付の場合**は、接続管を下に向けます。
(2)止水栓を開けてロータンクに通水します。
(3)給水が終ったらロータンク内の水位（水面）がオーバーフロー管の「WL」マークに合っていることを確認します。
水位が「WL」マークに合っていなければボールタップの調節ナットで水位を調節します。

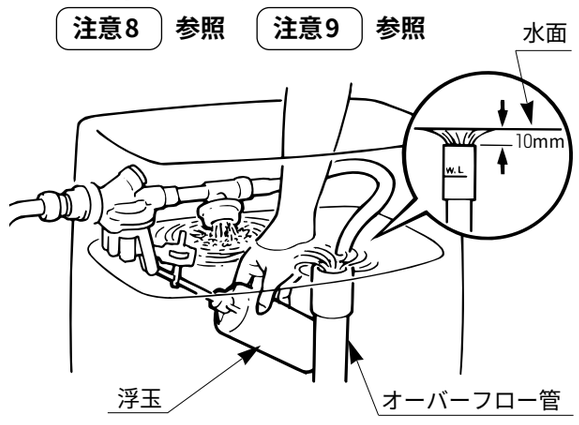
●右に回す：水位が上がります。
●左に回す：水位が下がります。

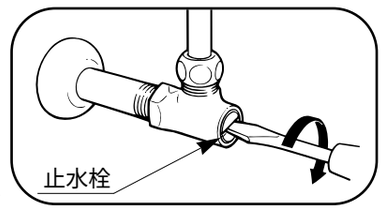


5 止水栓の調節

(1)ボールタップの浮玉をいっぱいに押し下げて通水します。
(2)水面がオーバーフロー管上面より10mm以上上がらないように止水栓を回して調節します。

注意8 **参照** **注意9** **参照**

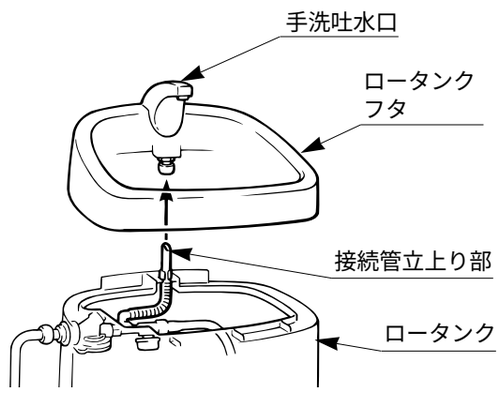




6 ロータンクフタの取付け

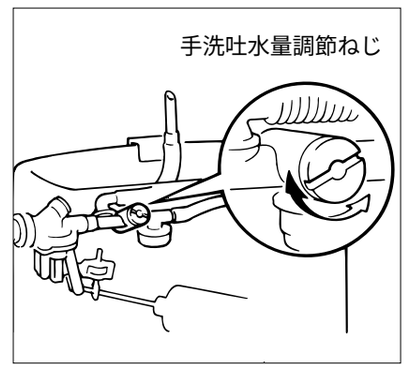
ロータンクフタをロータンクに取り付けます。
手洗付の場合は、手洗吐水口の下端部に接続管立上り部を確実に差し込んでください。

注意10 **参照**



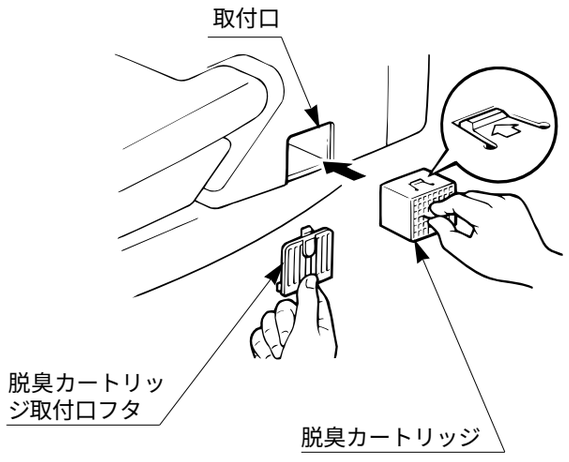
7 手洗吐水量の調節（流動・水抜式の場合）

(1)洗浄ハンドルを回して便器洗浄を行い、手洗吐水口から吐水させます。このとき、飛沫があればロータンクフタを外します。
(2)手洗吐水量調節ねじを回して、飛沫がなくなるくらいに調節します。
※標準タイプの手洗吐水量が多い場合は止水栓をしぼって調節します。

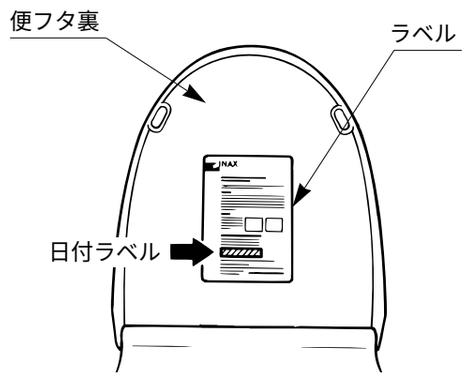


8 脱臭カートリッジの装着

(1)脱臭カートリッジ取付口フタを外します。
(2)脱臭カートリッジを取付口に差し込み、脱臭カートリッジ取付口フタを取り付けます。

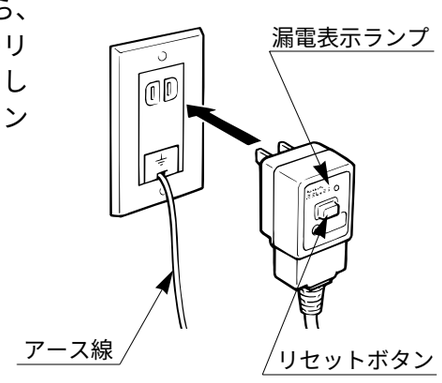


(3)交換時期の目安として日付ラベルに日付を記入して、便フタ裏のラベルに張り付けます。



9 漏電保護プラグの取付け

(1)アース線をコンセントのアース端子に接続します。
(2)便座に触れないようにして漏電保護プラグをコンセント（交流100V）に根元まで確実に差し込みます。
このとき、漏電保護プラグの漏電表示ランプが点灯していないことを確認します。
もし点灯していたら、漏電保護プラグのリセットボタンを押します。漏電表示ランプが消えます。



10 リモコンの位置決め

(1)リモコンの裏フタを開け、付属の乾電池（単三4本）を入れます。

注意11 **参照**

(2)リモコンを取り付けようとする位置に置き、実際に便座に座って止スイッチを押します。このとき、シャワートイレ本体より“ピッ”という電子音がするのを確認します。

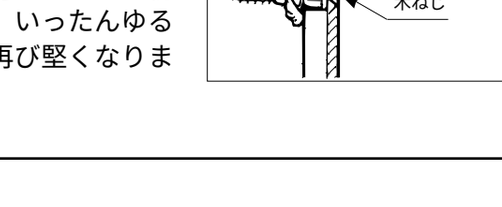
注意12 **参照**

11 リモコンの取付け

(1)ブラケットを壁の材質に合わせた施工方法で、取付位置に取り付けます。

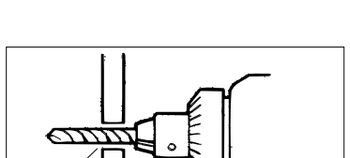
●厚みが5mm以上の合板壁の場合

ブラケットを付属の木ねじでしっかりと固定します。

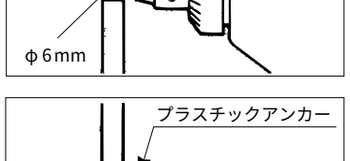


●厚みが5mm以下の合板壁および石膏ボード壁の場合

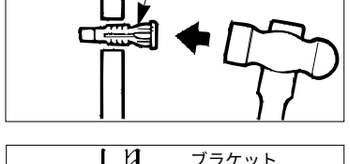
1 直径6mmの下穴をあけます。（石膏ボードは直径5mm）



2 ハンマー等を使って、付属のプラスチックアンカーを軽く打ち込みます。

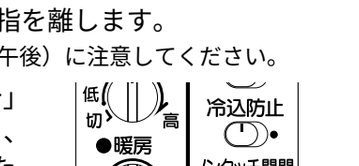


3 ブラケットを付属の木ねじでしっかりと固定します。締め付けていくと初めは堅く、いったんゆるくなって再び堅くなります。



●コンクリートの場合

1 直径6mm、深さ約33mmの下穴をあけます。



2 ハンマー等を使って、付属のプラスチックアンカーを軽く打ち込みます。

3 ブラケットを付属の木ねじでしっかりと固定します。

(2)リモコンをブラケットの上に合わせ、下へ押し下げてリモコンを取り付けます。

(3)リモコン副操作部の「時」スイッチを押し続けて、合わせたい数字になったら指を離します。
このときAM（午前）、PM（午後）に注意してください。
リモコン副操作部の「分」スイッチを押し続けて、合わせたい数字になったら指を離します。

試運転　施工が完了したら、次の要領で試運転を行います。

1 水漏れ点検

(1) リモコンの流すスイッチを押すか、洗浄ハンドルを操作して便器洗浄を数回行い、各接続部に漏水がないことを確認します。
同時に、フロート弁の開閉、ボールタップの動作、洗浄ハンドルの戻り具合等ロータンク内部金具に不具合がないことを確認します。

(2) 便器鉢内に長さ約760mmのトイレットペーパーを丸めたもの7個を入れ、これが1回の洗浄で排出できることを確認します。
もし、1回で排出できない場合は、フロート弁やその他の内部金具を点検します。

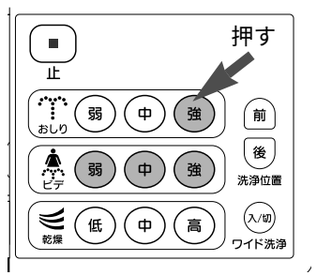
注意13 参照

2 おしり・ビデ洗浄の確認

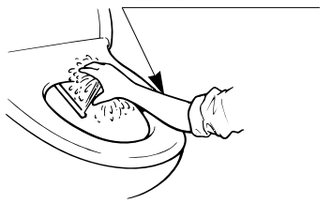
（1）腕を便座にのせ、おしりスイッチ「強」を押します。ノズル（おしり用）が伸びて洗浄水が噴出することを確認します。このとき洗浄水が周囲に飛び散らないように手の平で受けます。止スイッチを押すと洗浄水が停止します。

（2）便座に触れながらビデスイッチのいずれかを押します。
ノズル（ビデ用）が伸びておしり洗浄よりも35mm程度前に洗浄水が噴出することを確認します。
止スイッチを押すとビデが停止します。

リモコン主操作部



腕まくりをして肌で直接便座に触れてください。



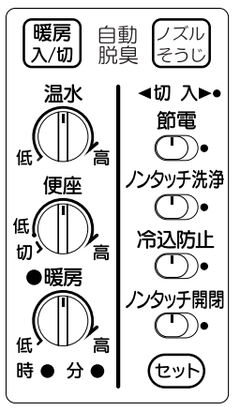
3 温水の確認

温水ダイアルを「高」側に回します。
約10分待ってから洗浄水が温かいことを確認します。

4 暖房便座の確認

便座ダイアルを「高」側に回します。
そのまま約10分待ち、暖かくなることを確認します。

リモコン副操作部



5 脱臭機能の確認

便座に触れると脱臭カートリッジから風が出ることを確認します。また便座から手を離すと、約１分後に風が止まることを確認します。

6 部屋暖房機能の確認（部屋暖房付の場合）

(1) 暖房スイッチを押します。このとき液晶表示部に「暖房」と表示されます。

(2) 部屋暖房用温風吹出口から風が出ることを確認します。

注意14 参照

注 意 13

給排水接続部の水漏れ点検は、数回繰り返して水を流さないと確認が困難な場合があります。

注 意 14

トイレの室温が高い場合、約60秒間だけ風が出ます。

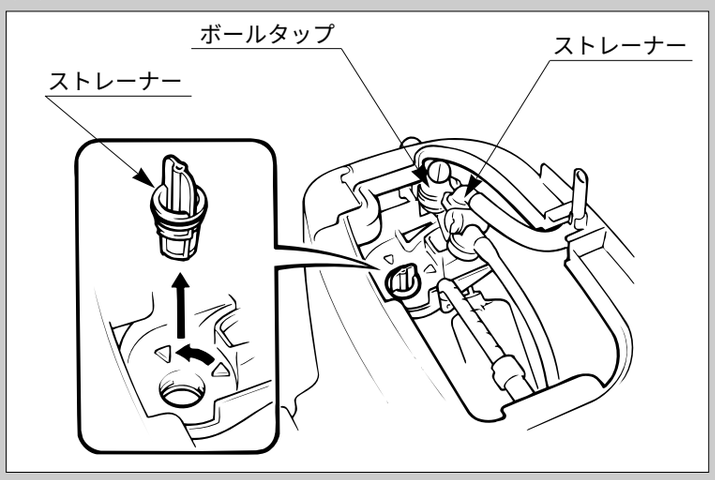
水の出方が悪い場合は、ストレーナーを掃除してください。

(1) 止水栓を閉めて、ロータンクフタを外します。
注意15 参照

(2) ストレーナー（2ヶ所）を外します。

(3) ストレーナーを掃除し、取り付けます。

(4) ロータンクフタを取り付けて、止水栓を開けます。



長期間使用しない場合のご注意

施工後、長期間使用しない場合は、下記の要領で必要箇所の水を抜いてください。
※温水タンク内の水が汚れたり、冬期には凍結して**破損する恐れがあります。**

1.ロータンク内の水抜き

(1) 止水栓を閉めて、ロータンクへの給水を止めます。
（寒冷地用水抜式は、室内の水抜栓を操作します。）
注意15 参照　注意16 参照

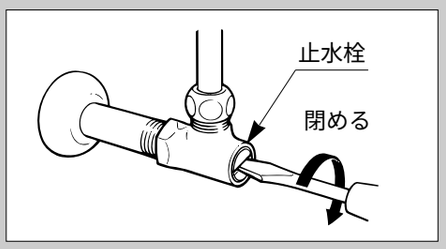
(2) ロータンクの洗浄ハンドルを操作して、ロータンク内の水を抜きます。

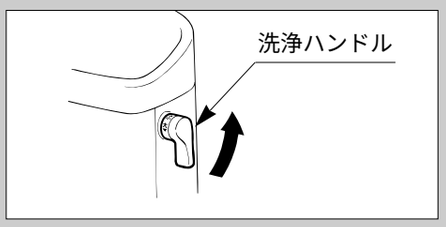
2.温水タンク内の水抜き

(1) ロータンク左下にある温水タンク水抜栓の下に洗面器等を置き、温水タンク水抜栓をゆるめて水を抜きます。水抜き後、温水タンク水抜栓を締め付けます。

(2) 試運転2 の要領でシャワーを出して温水タンクから水を抜きます。

(3) 漏電保護プラグをコンセントから抜きます。





注 意 15

止水栓の調節部は樹脂製ですので、キズを付ける恐れがあります。必要以上に閉めすぎないでください。

注 意 16

水抜栓と止水栓が両方ある場合、止水栓は必ず全開にして使用してください。止水栓を絞ると水が抜けきれず、凍結する恐れがあります。